

ひきこもりの若者たちが

EM廃油石鹼 で未来との循環を作る

市民公益活動促進補助金 プレゼンテーション

NPO法人南大阪サポートネット

NPO法人南大阪サポートネットの歩み

- 2001年 南大阪サポートネット設立
- 2005年 3月28日、特定非営利活動法人を設立
- 2014年 ひきこもりの若者の自立支援を開始
- 2017年 ひきこもりの若者の居場所
- 『TO-VILLA（トビラ）』を開設

家族の会、学びの場

お弁当作り、各種ワークショップ

講演会やイベントを実施

2021年度より 当事者会スタート

ひきこもりの若者を取り巻く社会の背景



内閣府調査

ひきこもり 146万人 (15歳～64歳)

若年無業者 75万人 (15歳から34歳)

2021年 非求職・希望型の計

要因 いじめ、発達障害、鬱、適応障害

貧困、DV、虐待、ヤングケアラーなど多様重複

一度社会のルールから外れると元に戻ることは大変困難

個人の問題ではなく 「社会の問題」

スモールステップの支援

ひきこもりからの回復

レジリエンス ⇒ 傷つきの回復

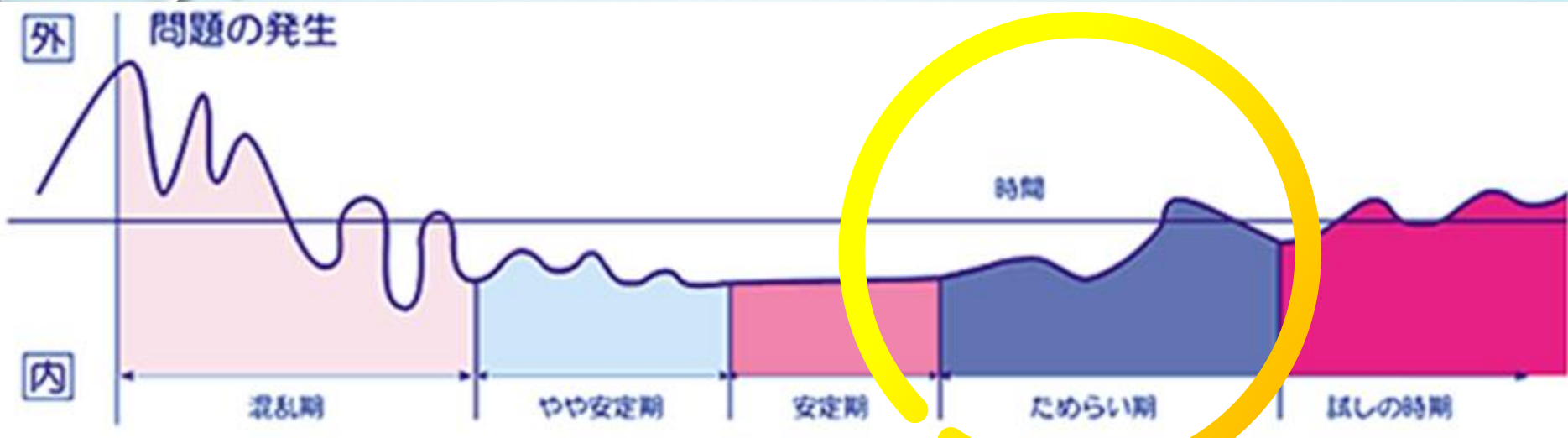
エネルギー充填 ⇒ 自信の回復

経験の積み上げ

次のステージに ⇒ 自分自身の人生へ歩む

自信の回復と様々な体験を重ねる機会を経て

人生の次のステージへ向かうため、寄り添い共に過ごす支援



【状況】「何かしようかな」とほのめかすが、実行には至らない

【本人の気持ち】何かしたいが、自信がもてず不安で一杯

【家族の気持ち】再びあせりが出始めるが、周囲の支えを得て本人を見守り通せる

【対応方法】 目標を設定せず、せかさない

伴走支援 温かな寄り添い

本人が少しずつ、「何かしようかな」という気持ちになってきます

しかし、まだまだ自信がなく、言葉と行動が一致しないこともあるかもしれません

一度は距離を置いた社会に、再び参加するための第一歩を踏み出すことは、とても**勇気のいること**です。ためらうのも無理はありません

本人が「**何かしたい気持ち**になっていること」を大切にしましょう

中間支援ができる場所や機会

当事者だけを切り離して支援するのではなく
安心な社会の中での第一歩

信頼できる第三者の伴走

ピアサポートチーム

ピア = 同じ傷つき体験や思いがある
家族以外の信頼できる関り

公的支援の現状



行政など公的機関や相談窓口

多くは 就労 がゴール

課 題 就労以外の選択肢が少ない

就労に向かうまでの前段階支援

居場所やスモールステップの

意義と必要性に理解が薄い

地域連携を目指すと掲げられているが・・・

SDGs への取り組み



- 6.6 2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。
- 6.B 水と衛生に関わる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。
- 8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
- 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

EM廃油石鹼とは

EMとは

農地や水環境の改善に威力を発揮する光合成細菌や、発酵型の乳酸菌、酵母など、自然界にいる人にも環境にもやさしい善玉菌の集合体です

廃油石鹼

処理してしまう廃油を有効に活かします

EM廃油石鹼 具体的な活動



① 廃油石鹼作り

当事者と一緒に製造、包装、配布物作成など

② 広報・販売

廃油石鹼の販売と活動の広報

③ 地域との繋がり作り

ワークショップ開催やイベント参加

廃油収集・石けんの販売を通して繋がりを作る

④ 支援者研修

主にひきこもりの理解と関わりを学ぶ

廃油の集め方



当法人会員やボランティア、関係者に依頼

社会福祉協議会さやま荘 食堂 廃油提供

地域の皆さんに協力依頼 ⇒ 販売とのバランス

販 売 （薬機法に注意）

- ・出品中の石けんは、薬機法上『雑貨』扱いになります。
- ・この石鹸は薬事法上の化粧石けんではなく、台所用雑貨品（洗濯・台所洗剤）ですのでご自身の判断でご購入くださいますようお願いいたします
- ・化粧品・医薬品・医薬部外品のいずれにも該当しません

上記のような記載をして販売

EM廃油石鹼作りを通して大切にすること

当事者からの希望、自己選択・自己決定

役割を持って取り組むことによる自己有用感

様々な過程で地域の方と接する機会を持つ

自分たちの作業で収益を上げる体験をする

かかわってくれる方々への感謝の体験

作業を共にしながら自分に向き合ってみる

自分自身の次のステージをイメージする

自然環境 に関心を寄せる 命あるモノたちとの共生を考える

これらの大切さをEM廃油石鹼を通して地域住民への発信

ご清聴ありがとうございました

これからもご理解、ご協力、ご支援よろしくお願いします

おたがいさま

自分が困ったら

「助けてほしい」って伝える

自分にゆとりがある時は

「できることある？」って聴く



そんな社会が実現するといいですね